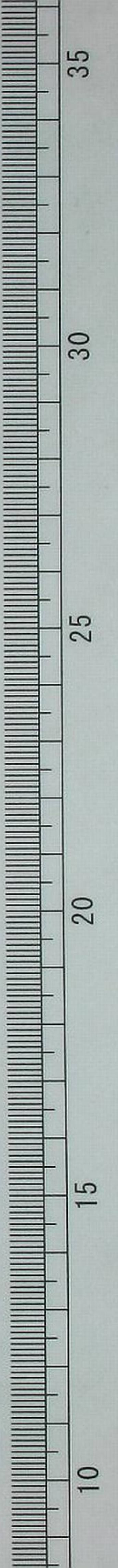


世界國盡

柳田文庫
文庫11
A1835
3





歐羅巴洲の事
 億六千二百萬人を
 の内十分の九は白
 人の種あり南の方
 には黒白相混した
 る人種あり又北
 の方魯西亞の領分
 には蒙古人の種も
 残りて顔色白から

士
 人
 國
 壹
 卷
 三

歐羅巴洲
 亞細亞
 亞細亞の東方
 小呂宋山

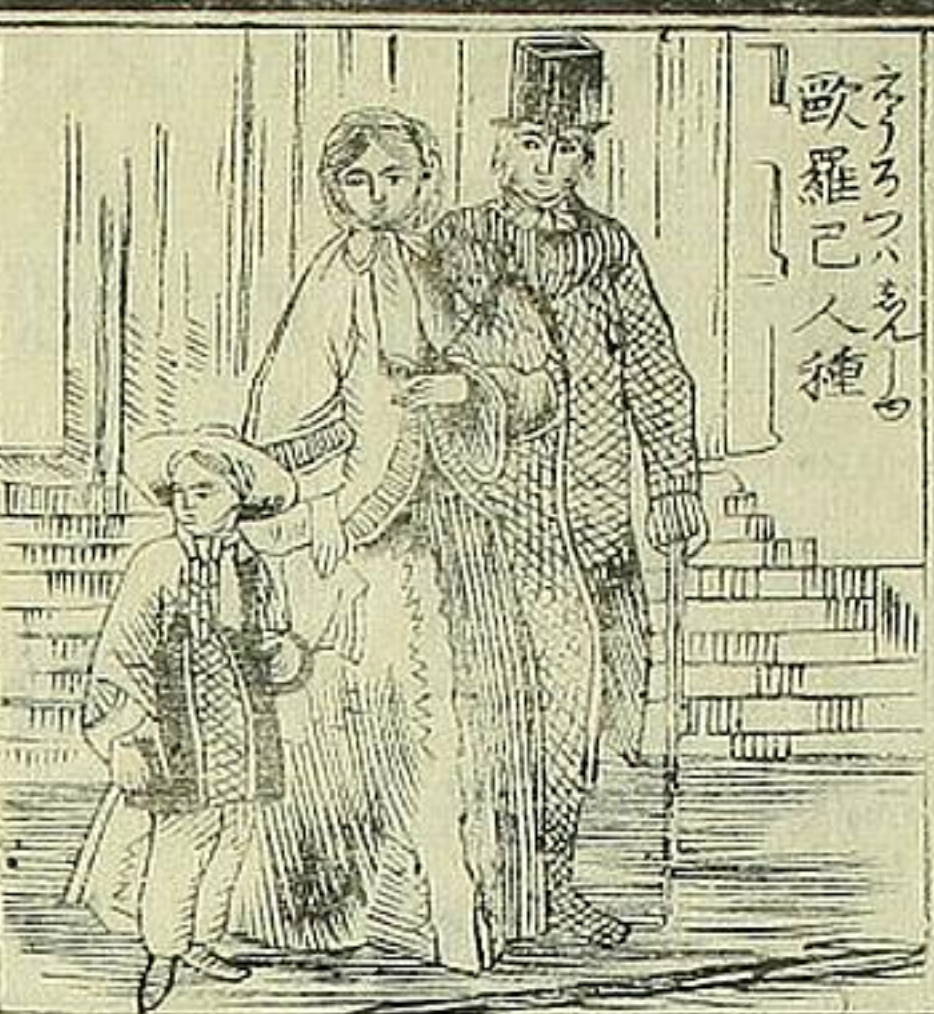


文庫11
 A/1835
 3



ぬりのり

歐羅巴人種



當時歐羅巴洲中の
國々大小四十九王
國もろく公國も
帝國ハ唯魯西亞

出、空良留河、末を

表海、少流、乙甲

美第山の麓、黒

海越、北中、海河

遊利加洲、對

佛蘭西、地、利、三
箇國、の、土、留、古、も
或ハ、帝、國、と、い、ふ、こ
とも、は、れ、れ、ど、も、他、の
國、と、ハ、風、俗、も、違、ひ
別、の、の、小、セ、を、英、吉
利、ハ、王、國、お、ま、ど、も
格、別、の、強、國、お、て、其
政、事、の、行、届、き、國、力
の、盛、あ、る、ハ、歐、羅、巴

治部良苗、多留の

遊、居、過、下、西、一、面、河

多羅羅海、河、以、南、北

一千里、東西、三百

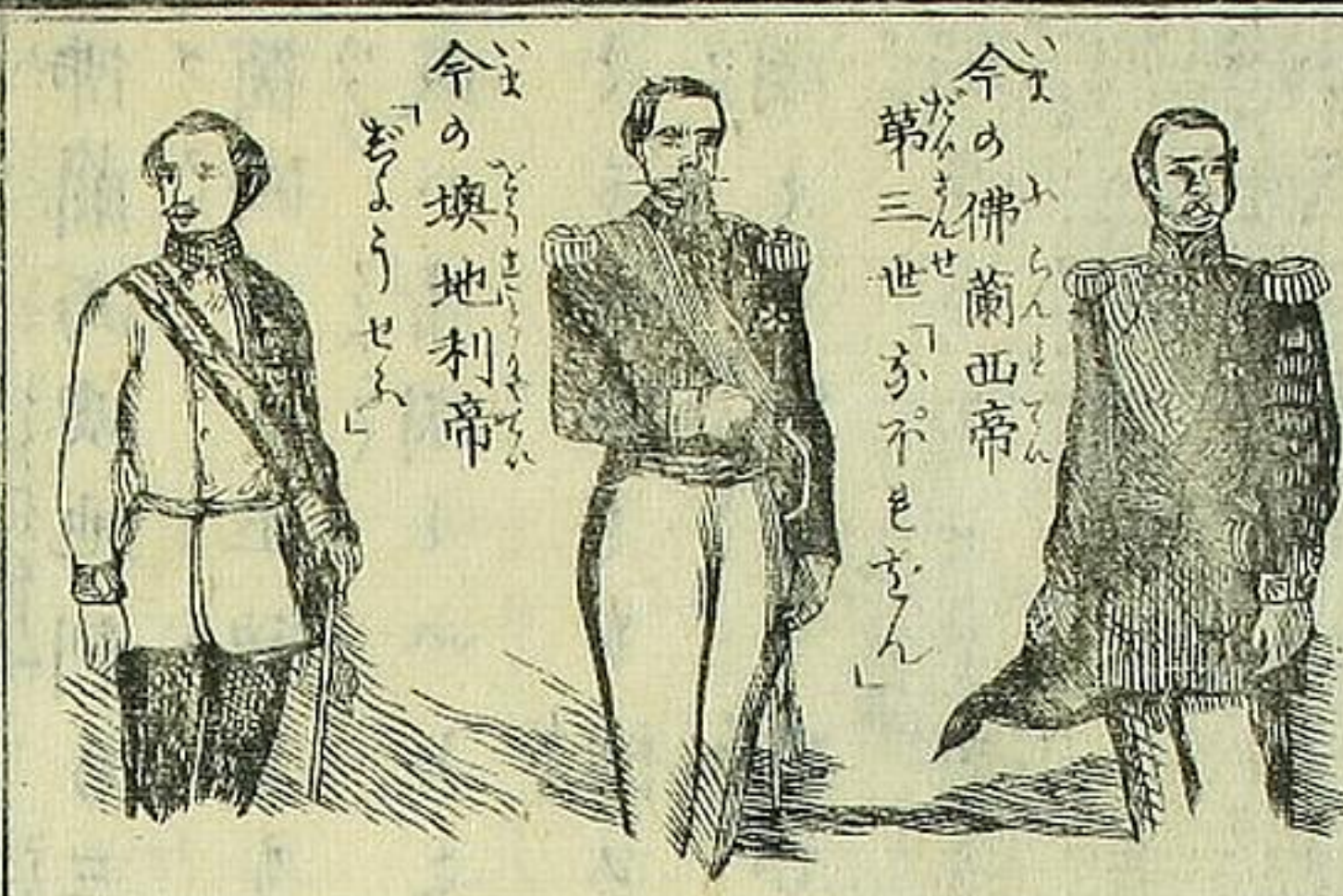
系、由、一、列、多、四

第一ともいふべし

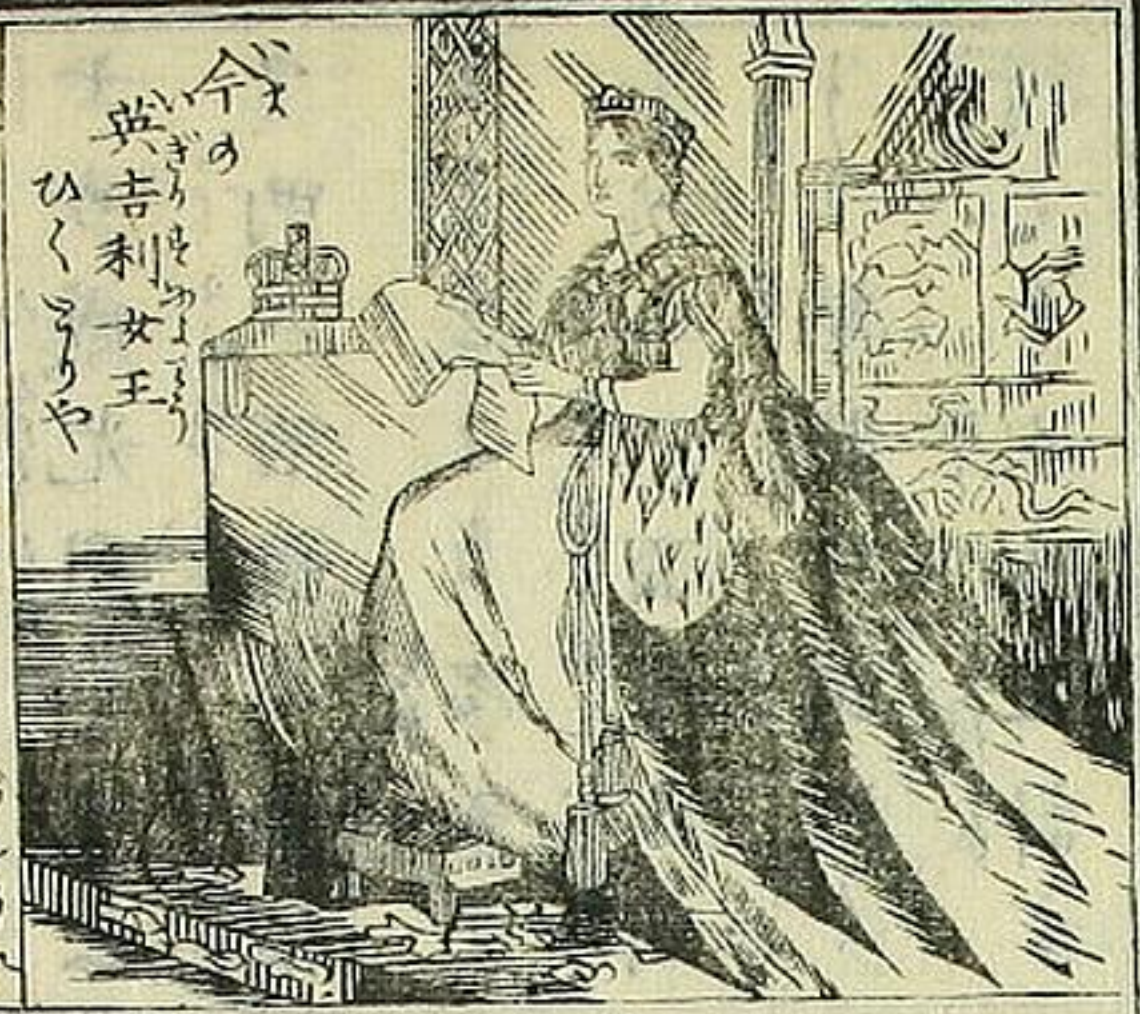
今の魯西亞帝
第二世「ボキキサン」といふ

今佛蘭西帝
第三世「ナポレオン」といふ

今の埃地利帝
「ジョージ」といふ



十九の國は大小強弱、時勢より由て浮沈、
魯西亞、佛蘭西、英、佛、埃地利、
當り日の出



今の英吉利女王
「ビクトリア」といふ

當時歐羅巴の文明
開化世界第一として
相違もなければ
是とも往古ハ矢張

の英大國は此の廣き
其校を以て英大國の
本より多くを採りたる國
は其代より人民の
多きを得て富國強

渾沌無智追々開け
の進む不及でも中
古ハ封建の世とて
専ら武を重んじ武
士の威光烈しく志
て町人百姓の難波
せーことも多かり
一が二三十年以前
より學問の道漸く
行はるる人の生計も

兵天の一文の開化の
中心と名はるあり
けり業人の教の
行而も徳を修
免知は并た文學

繁昌する小従ひ世
の人皆智を貴で力
を恐るる國の政事
も自然小その邊小
基きて次第小今日
の有様不至りしあ
て今こゝ小渾沌無
知の風俗よ文明
開化小至るよ次
第小その趣を顯し

枝葉を果を果し
部部の差別あり
法方と建る學問所
幾多あり教知あり
彼の産業のありて

たる繪國を西洋の地理書を寫して示すこと左の如く此繪を見て世の中の大槩を知るべし



彼高貴なる者も
兵備整ひて武器足
るに世界に誇る者
平れしは源をたぐ
一布衣勢をふる



の枝は咲かば花
あはれ花の心も
美しむる本は枝
をむかひて
急ぐるを道



○英吉利の本國ハ
 さきで大國小もわ
 らぬ凡日本國位の
 ちのふもども遠方
 小飛地多く五大洲

中興大利の
 分りらざれば處か
 こをを集むバ英の
 一里四方かして八
 百萬坪大抵世界の
 廣さの六分一あり
 其廣大魯西亞も
 劣らぬ法の廣き領
 分不佳ふ人の數一

歩もとと行路共
 一山も西洋の道
 茶の花をとりん
 英吉利を佛茶西
 國の北の海端を離

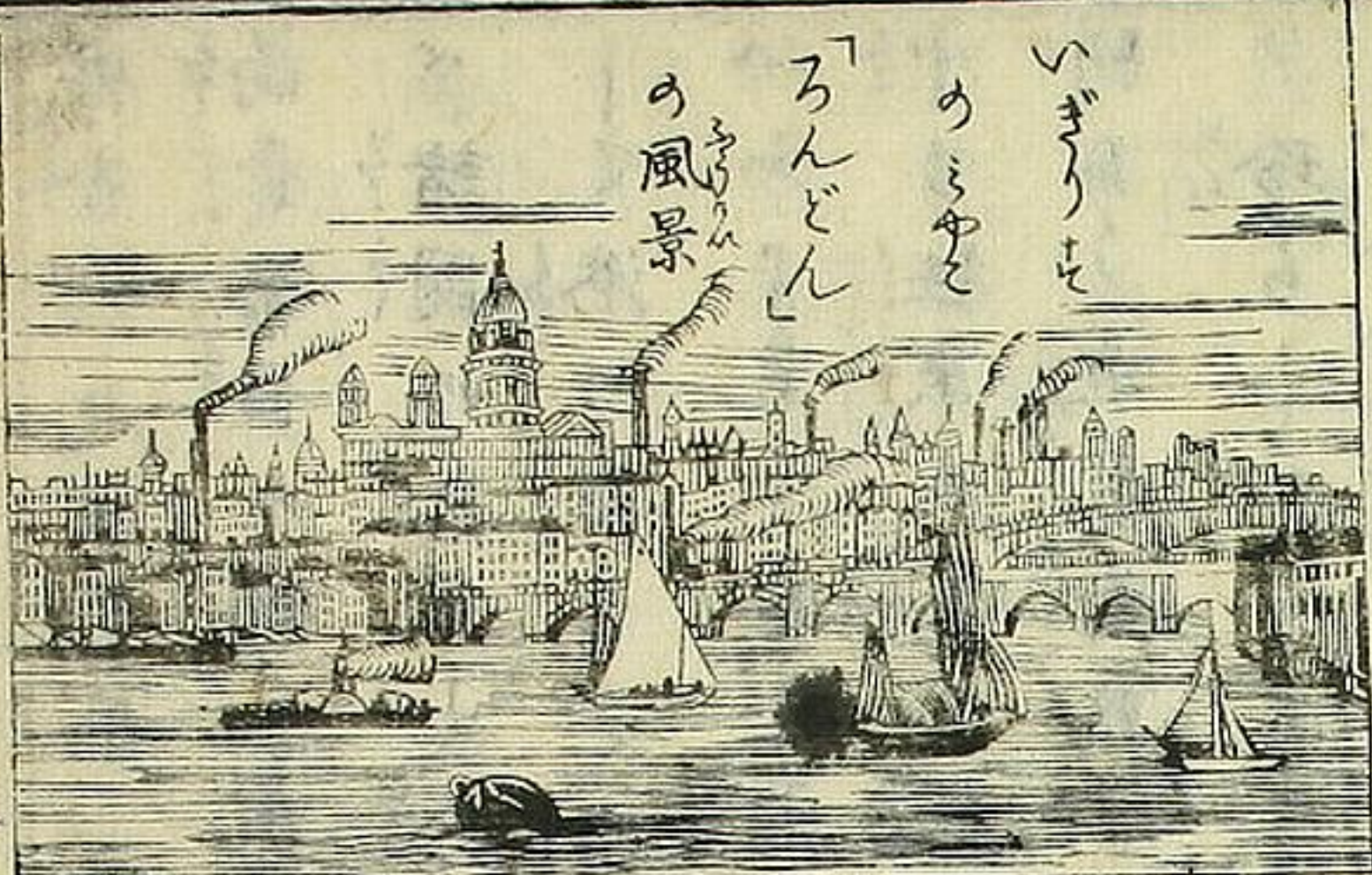
竹嶋の國在格
 茶河再蘭英倫以
 三心を合衆王
 國の威名輝く一
 皇人氏二年九百

世界圖畫卷之三

億八千三百萬人他
國無比類一唯支
那の人別及むざ
るゆゑ
論頤の外ふり大都
會の數多し一とい
る不ふるびるみん
とむ蘇格蘭の都小
なぢん不るふアル
蘭の都小ぶるん

百工技藝牧田畑産
物遺る所あり中
日多し鉄石炭蒸
氣若械の源を用
る多し奴等若知

等何れも繁昌する
市中あり



いざりて
のらやと
るんどん
の風景

極く勇生し水を
渡りし蒸氣船
里の波は思ふ陸
地は走る蒸氣車
は人小翼の新式

英吉利ハ世界第一
商賣繁昌の國也
諸國の船の出入
して港の賑はきハ
いふまでもなく國
中の往來も甚だ便
利あり近來蒸氣船
ハ珍らからざり
とも日本人のい
だ見ぬ蒸氣車とい

飛より疾に傳信
機瞬く暇なく
告る急ぎ飛脚
申す外との新中
互に聞き合ひ傳ふ

ふもつりてこきハ
馬も牛も用ひる唯
蒸氣の仕掛にて走
る車あり其疾きこ
と實に人の目を驚
かす大抵一時ハ二
十里も走る中人東
海道五十三驛も
ハ一昼夜にて往返
する一又傳信機と

の都會以中心を延
武須河畔の論棟
府廣に世界に款
なは美玉一に大郡
今未だ西三里南北を

いふものなりとも
ハ百里も千里も針
金を引張てその両
端不なまきとると
以ふもの仕掛を
設け瞬く間小数千
里の遠方へ相圖
て談話のや来る趣
向あり瓦斯とハ石
炭を蒸焼して其

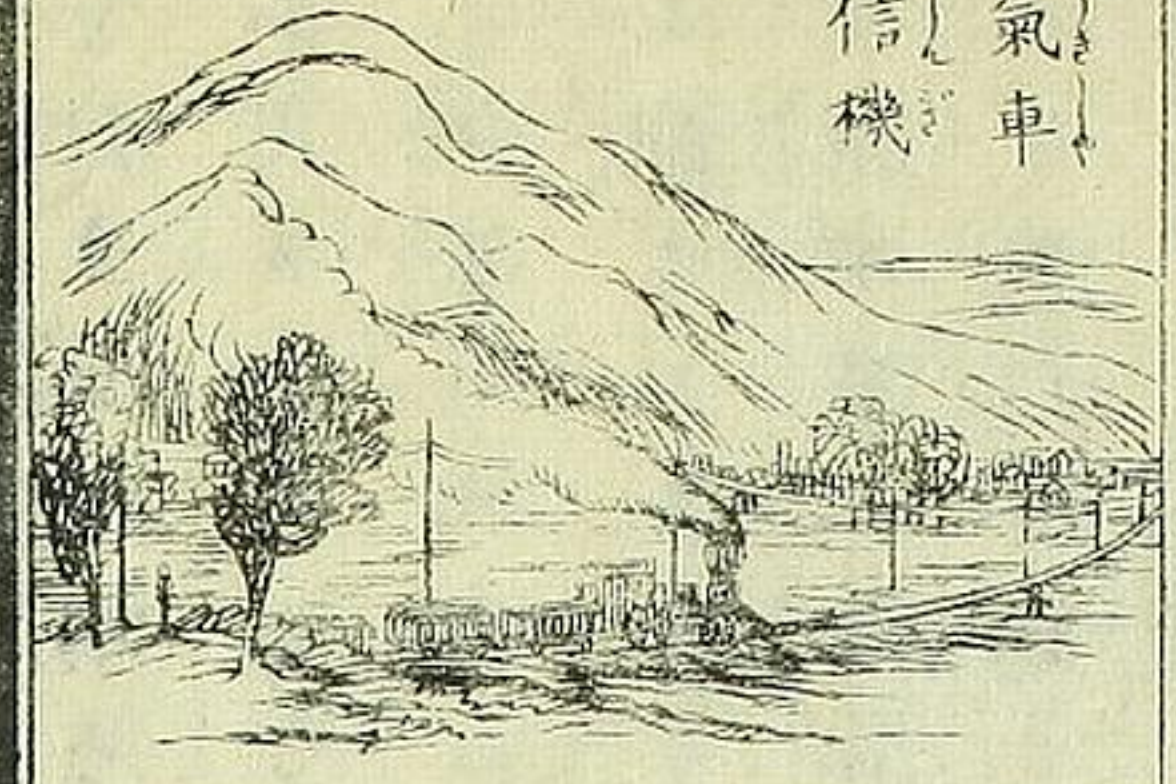
百里の間に立修路
軒端ハ柝の蓋取
並々ハ鐘を立置
地多あり人
十万余衆集雲

氣を引き油蠟燭の
代り小用をそのあり
但し此等の仕掛ハ
英吉利のよからど
西洋諸國皆同様
て人の便利を達
夜行するハ提燈を
持たせ荷物運ぶ
馬の背を用ひ急
用の文通をよとて

成成ハ一和ハ三千
六萬有瓦斯の燈火
燦々として晦日ハ晴
人知くして昼夜絶
たふ記馬車ハ解

草鞋をてひて道中
を駈るものもたゞ
何事も智慧くらべ
の世の中あり

蒸氣車
傳信機



四海の浪を音聲
港の聲は玉乃船
中遠望は森林草木
の葉をなみり河
蒸氣河の架た鉄

英吉利の海軍ハ世
界第一あり軍艦の
數千艘小近し領分
の地不備るハ勿論
始終外國へ出張
自國の人を守護し
て他の侮を防ぐ故
ハ世界中交易の行
たる場所ハハ
英人の威光最も盛

橋は去る蒸氣車
矢の如く今朝見
友は夕暮り千里隔
旅の急ぐ旅路
心せに悉く記す

虎留鹿の嶋ハ佛蘭
西皇帝第一世「オ
オセ」の誕生セ
由来ハて評判高
奈保禮恩ハもと身
分もあき人あり
寛政一七百年代ハ未
大乱起テそのせつ
用ひらきて陸軍の

海と岩近た角岩鹿
ル今昔し土地の廣大
魯西亜と次く帝位
の國人口云々七百萬
その府巴里斯は人

隊長とあきて生來
智勇兼備の英雄ハ
て年二十六才の時
伊太里を攻取テ翌
年ハ填地利ハ勝ら
向ハ天下ハ敵ハ
一八百年即ち
我文化元年佛蘭西
帝の位ハ即き威名
を歐羅巴洲中ハ夷

別々唯福領と及む
市中ハ家の集
業トシテ又字學校
の好ム名ハ西洋諸
國ト類ナリ國の

ハ魯西亞英吉利
の外ハ諸國とも大
抵皆佛蘭西ハ降伏
セシ不どの勢あり
一ガ千八百十二年
五十萬の大兵を卒
ひて魯西亞を攻り
大雪の大ゆハ難
して克むこと
次第ハ威勢を落し

産物数多し中
ニ里國の絹天鵝絨
酒ハ保る心
人酒法以種
三百種年小務

遂ハ
の戦ハ打負て嶋ハ
流



佛蘭西帝
第一世
ナポレオン

今ハ佛蘭西帝ハ弟
一世ハナポレオン

名教ハ幾百
教志
國ハ富
人の多
兵ハ亦多
軍艦

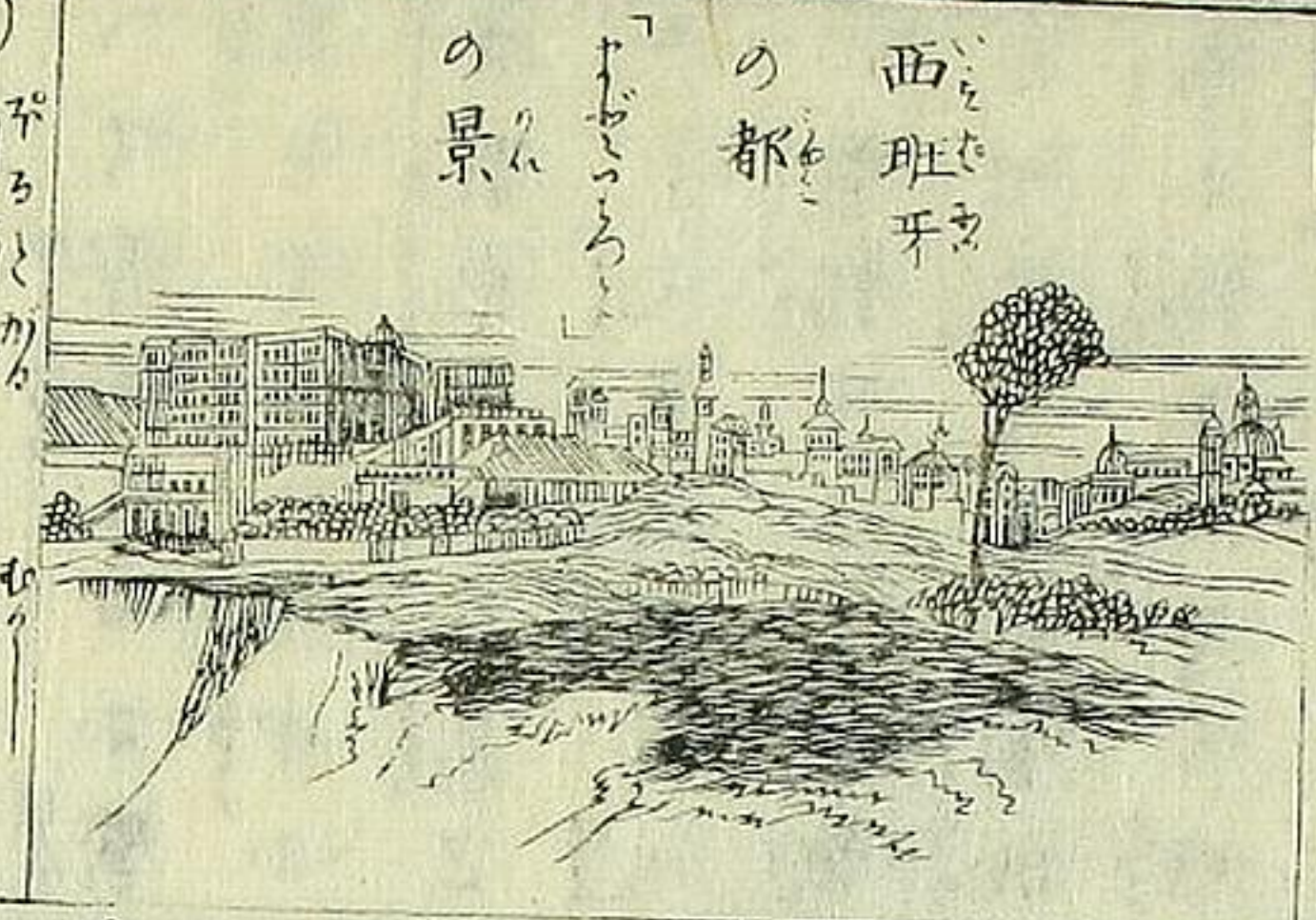
不きせんといふ此
 君も英雄の名譽は
 軍を盛小して歐羅
 巴諸國をここれに
 恐るといふ
 ○西班牙ハ其む
 一強大なる國にして
 世界中ハ領分も多

大小五百艘陸の兵士を五
 十萬軍器我彼懸
 して進退の心
 まは西洋一ハ強兵
 とは解一以得

かまが近來ハ衰
 へて學術も小繁
 昌せを廣き國中ハ
 蒸氣車の路も甚ど
 少一元來此國の人
 ハ骨格もよく勇氣
 をつれども兎角物
 事不勤る心なく唯
 氣位の高くして
 活計の道を勵まむ

理あり
 佛茶東西ハ西と南
 西煙牙國ハ都を
 麻玉律ハ名
 高きハ人を

頼母一からぬ風俗あり



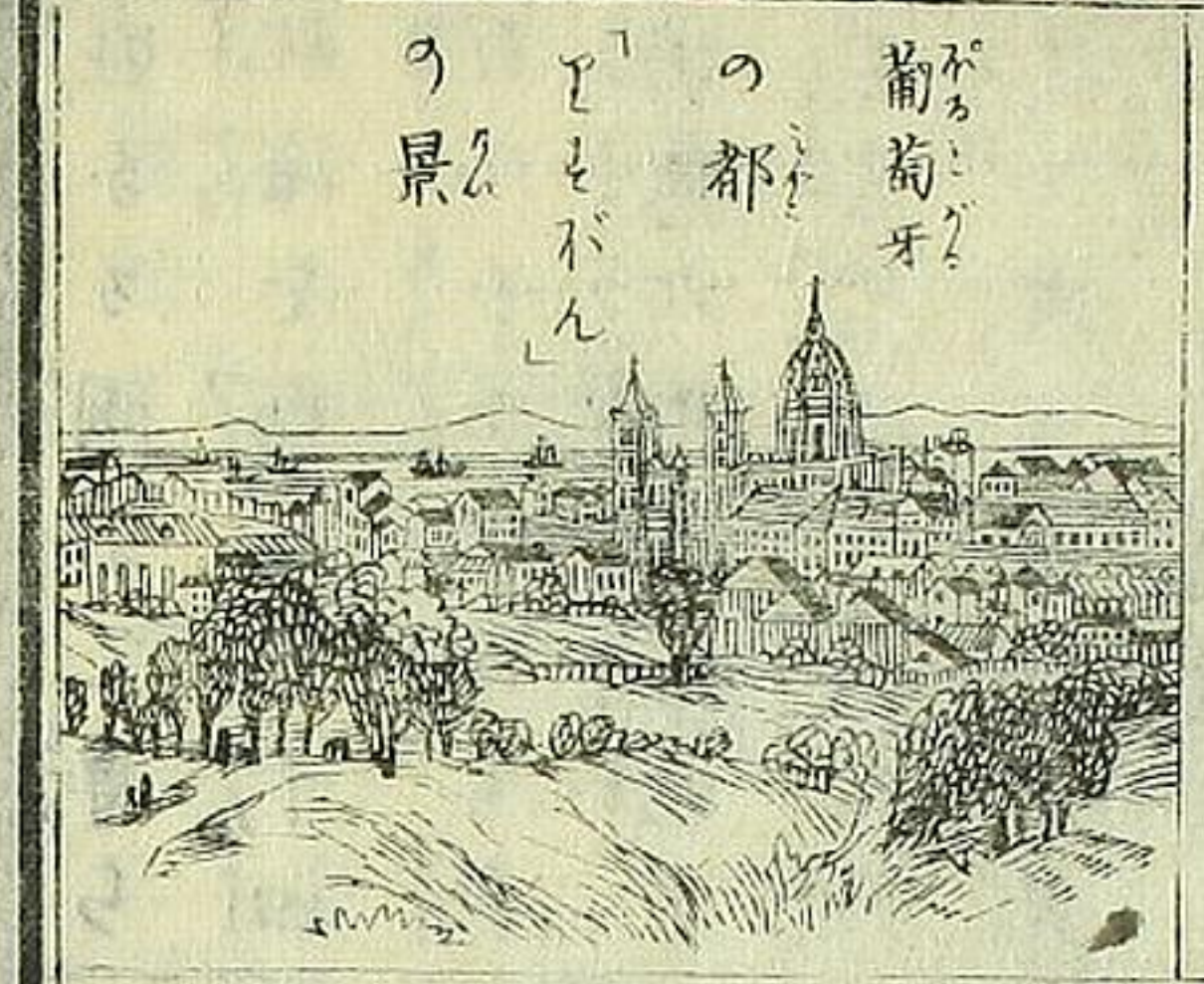
○葡萄牙も昔日ハ

性質慳吝も勤心
昔々きは稲の道
お返しは玉の産物
多しなり文明并化
乃至様以美を佛

盛なる國小て専ら
航海を勤めて千四
百九十七年即ち我
明應六年歐羅巴よ
り喜望峰を廻て印
度へ渡る道筋を見
出せしも葡萄牙の
人「こゝにでがま
いふ航海者ある日
本へ外國人の來る

小較アテハ遠敷
等以下有ん西
廻ルハ葡萄牙田
南ハ河の河口ニ岸
港里沈念冬

一ハ天文十一年を
始とすこれより
でびんととみふ
葡萄牙の人あり



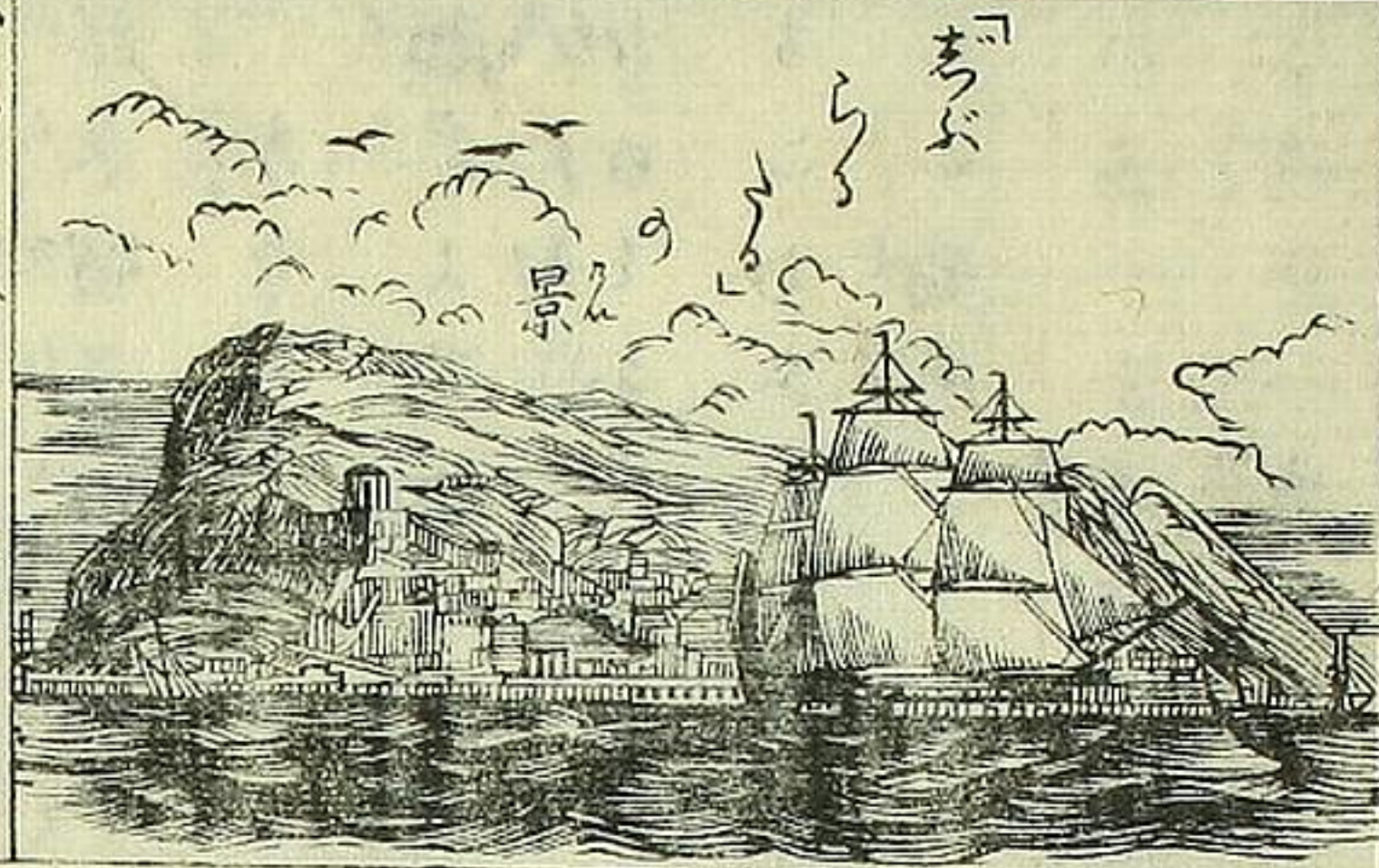
葡
萄
牙
の
都
の
景

國主住居は都なり
此地の風俗威儀を
鄰の風俗と異あり
又學校藝の流り
今昔の二ありと變

○地中海の口ハ治
部良留多留の瀬戸
一方舟をどりこの
瀬戸より潮の流込
ハのりおて外に出
ることあり不思議
ある場所なり英人
のあゝ小臺場を築
て狭き一方口を守
るハ巖の口おめて

目取船場より
里須盆の港を
立戻り南東より
出せは潮の流矢れ

其紐を持つが如し



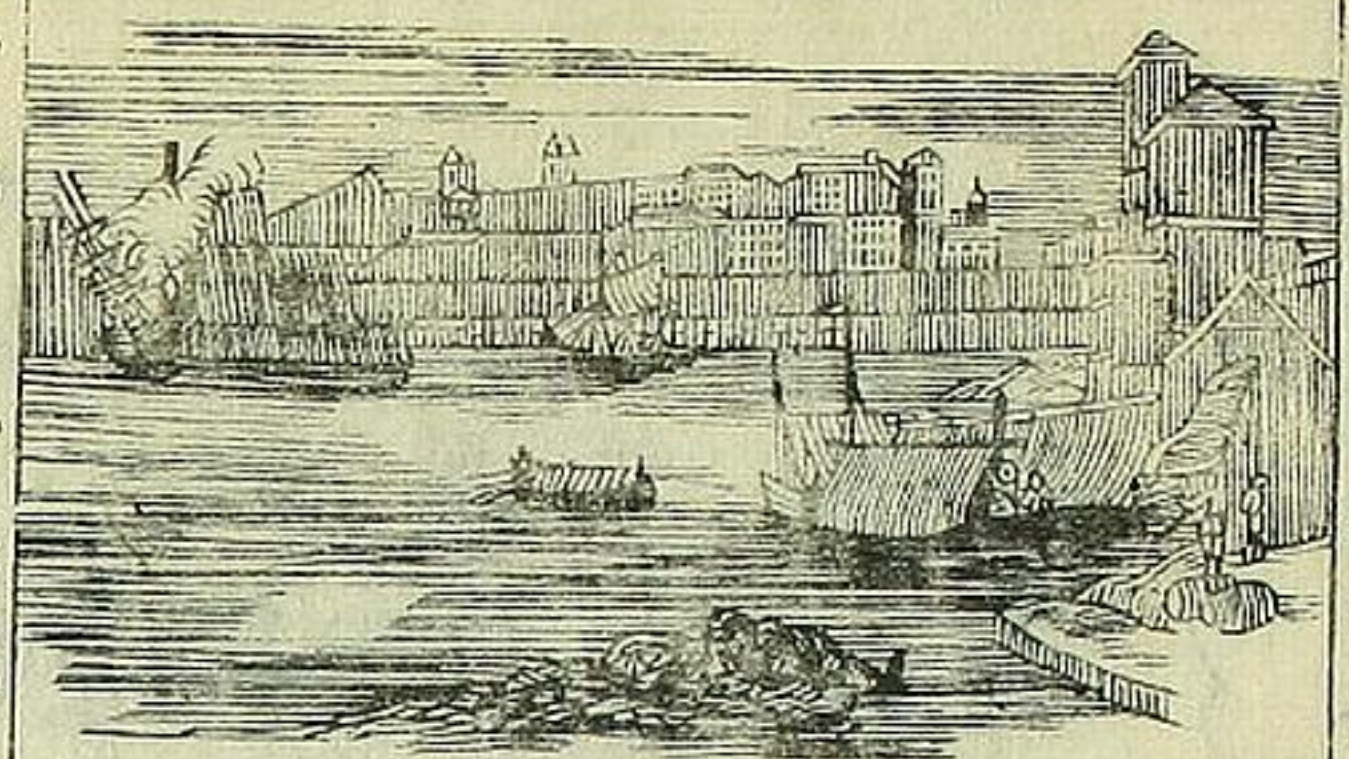
地中海のハおぶら

「治部良苗多留の
濠戸の南は僅六
七の南？」
何北利
加洲北の對も歐羅
巴の大海の玉堀に

るたるの外お又丸
太といふ嶋のりて
これも英領あり其
臺場の洪大ハおぶ
らるたるお劣らど
英人ハ此二箇所の
要害を占て地中海
お威を振へる本文
又喉押て背を打つ
とハこのおとあ

部良苗多留の要害
地中海の喉頭地
程矢陰小控一築立
た。砲臺ははあ古不
動の大盤石喉押

丸太嶋の景



○獅子里も伊太里
の領分あり大山の
江土奈山といふ

十界國畫卷三

小月以打ら美吉利
人の権勢を地中
海に轉じて思
水龍のぬまのほろ
一際下を廻るは

高さ一萬尺余海よ
望み見るべし歐
羅巴の名山あり



獅子里嶋
江土奈山
の景

馬里苗嶋東方の
猿路に屋椰子里越
伊右里國細長
くも靴の状
を擬し獅子里嶋ハ

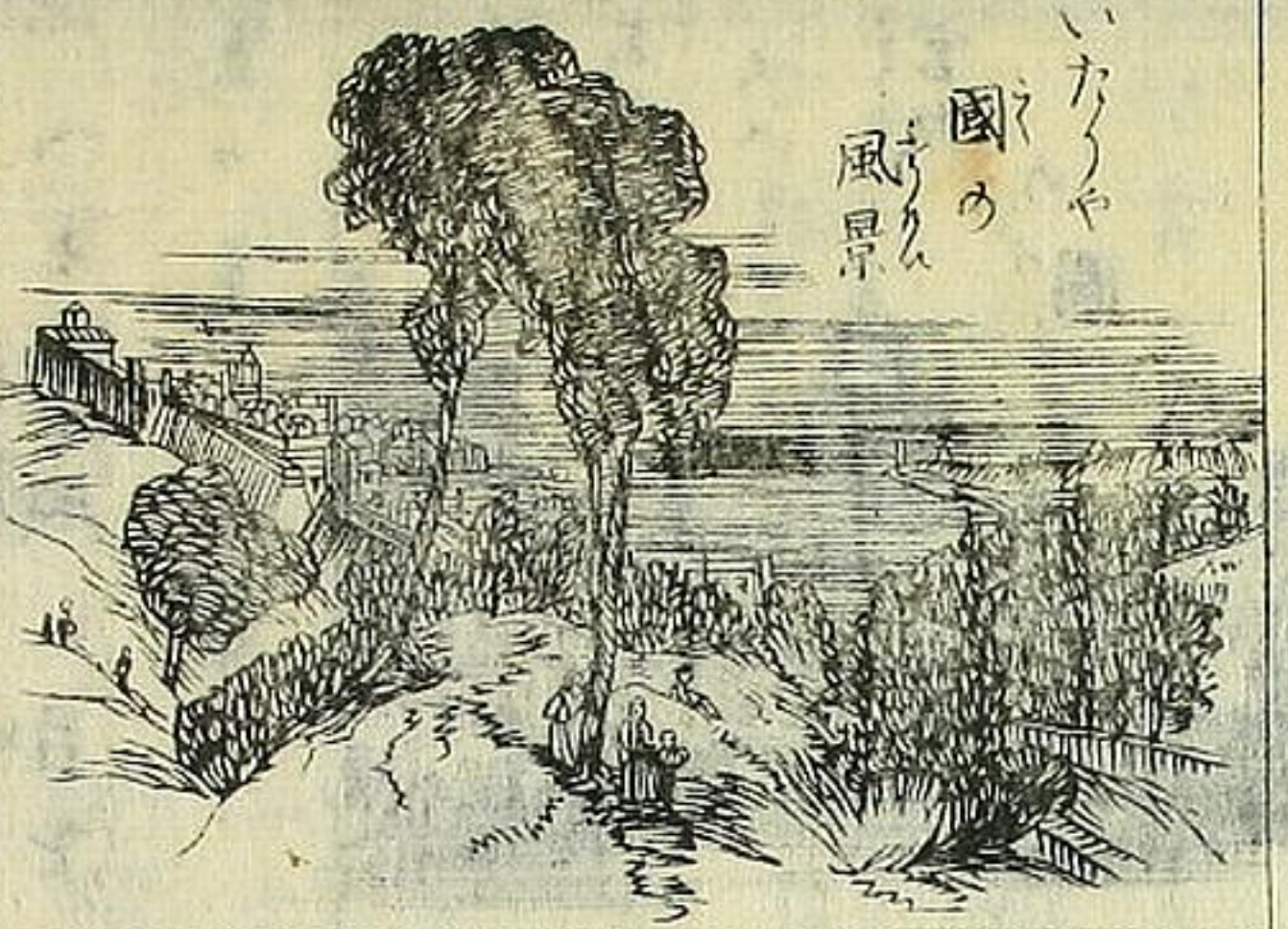
十界國畫卷三

十八

伊太里の南の方ハ山阪多く北の方ハ平地多し氣候も南ハ温たう北ハ寒し國中の人別二千萬人余都をふるきんまといふ名高き學問所は元來伊太里ハ舊き文國にて古代の

靴先以指の度又ふ
あしとん國の南ハ
三百里少く増年百
河百邊山南ハ海
突出一一可乘利

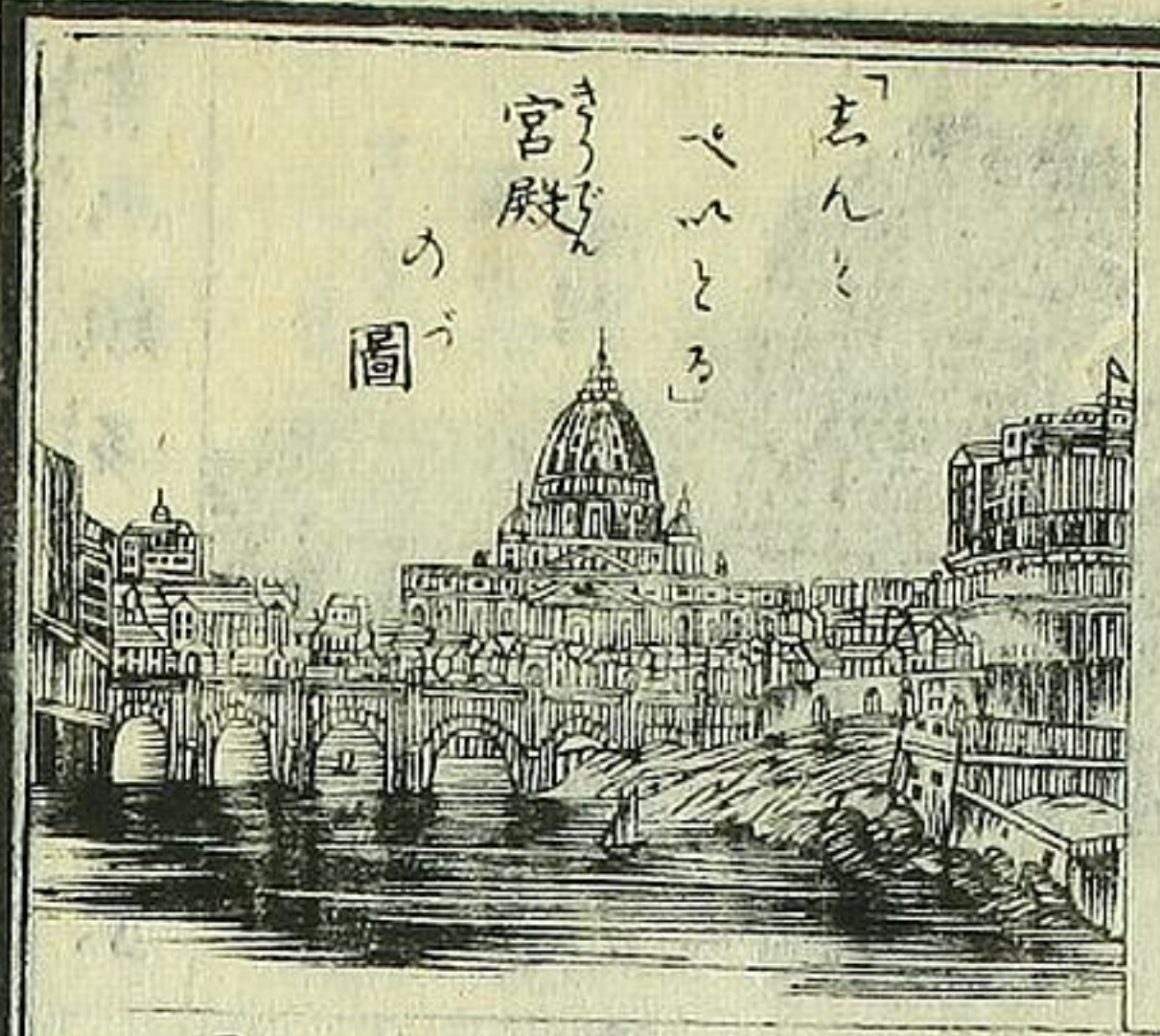
書画類多しといふ



法王の領分も近來ハ大小衰へたきど

地味肥えを四町の
天氣快く吹ふハ春
の山の色野ふを秋の
水の聲一山と川との
越ハ天の雲鉄の好風

も名所舊跡多く
んとべいといふ
以へる宮殿ハ目
驚くを不足り

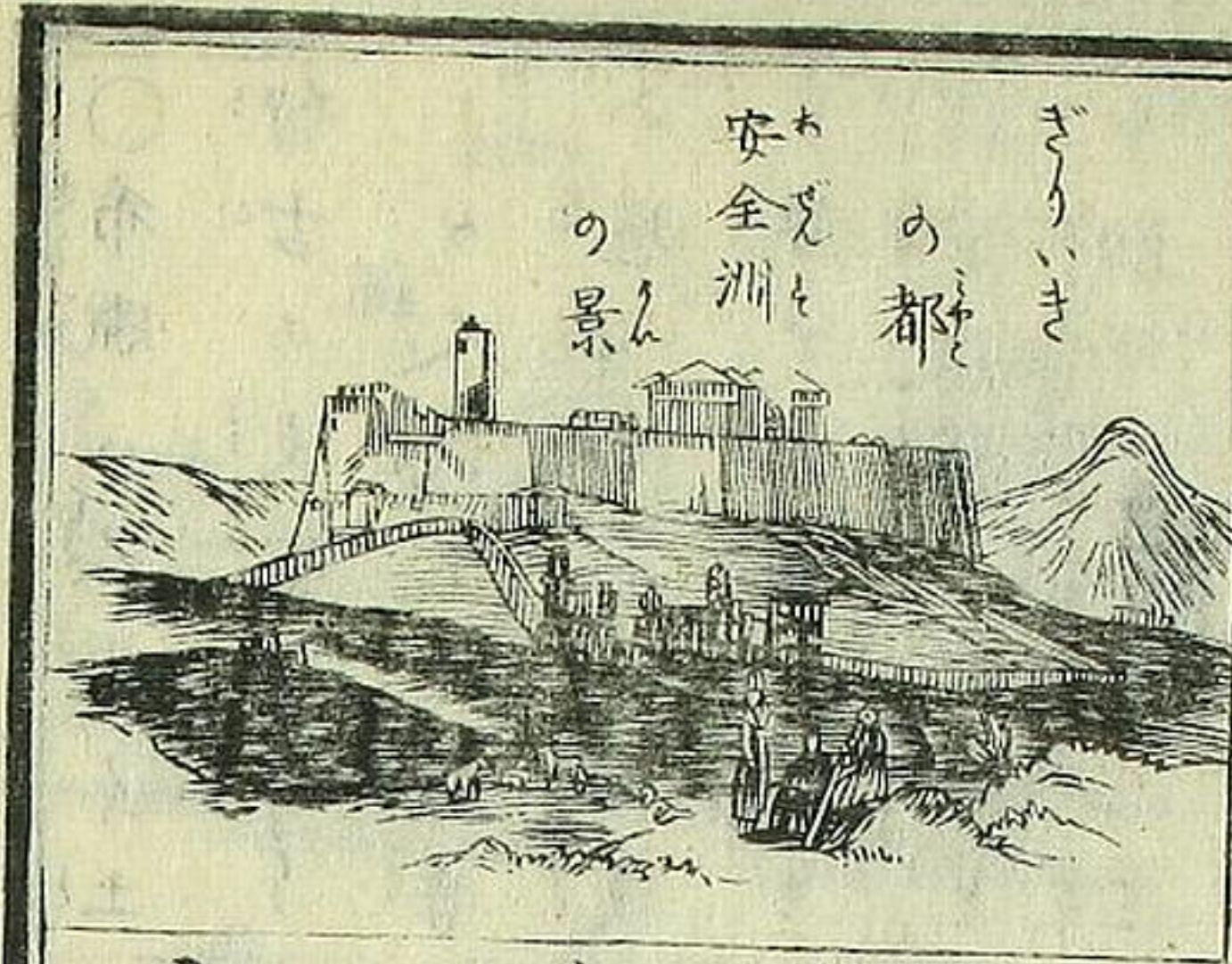


京北の法方い
く山田の領も
の極の蘭人西
海岸の羅馬
所字の空化

○希臘ハ久しく土
留古の支配と
一が人民その艱苦
小堪へて恢復
を謀る他國の人
同情相憐もて
を助け千二百
一年の頃一
の苦戦して遂に
の獨立國ハ復した

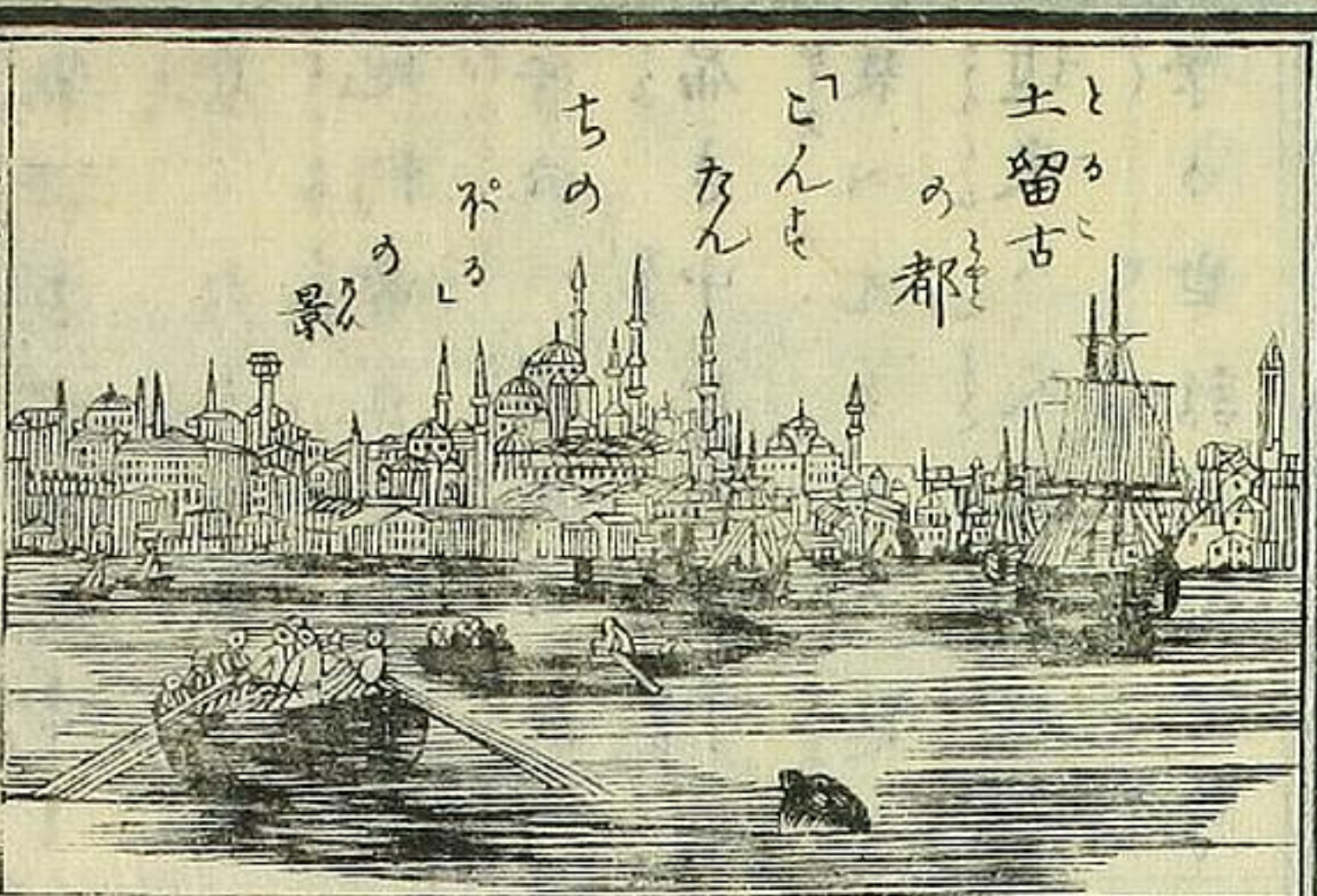
石所舊跡
伊右里國以南
由來元一
二十

○國中の人口別百三
十萬人都市の名と安
全洲といふ



今ハ風俗衰へて
昔々ハ様乃ありて見
り北の隣ハ古苗古
人情粗く死一
大國人口二百一

○土地利の人口ハ
三千五百萬人領分



東を亞細亞を押
飲一布ハ政府を
歐羅巴帝ハ威
権限たぐ有司百

も廣く由來久しき
帝位の國あり古き
翻譯書の獨逸帝と
記したるハ即ち填
地利帝のことあり
昔日ハ國民の教行
届き中ごろ次第ハ
衰へんとする趣ハ
近來ハ又類々ハ文
學の世話にて學

友折まへて海を
枕る意風俗知後
や月しく威徳く
百多あり生民戮
慄くても孝あり

問所かども多し



○普魯士ハ歐羅巴
五大國の一ハして

土留吉以北の填地
利魯佛ニ多ふ一帝
國東に灌く駘八部
の河に畔乃字塔奈
ハ皇帝臨御の大都

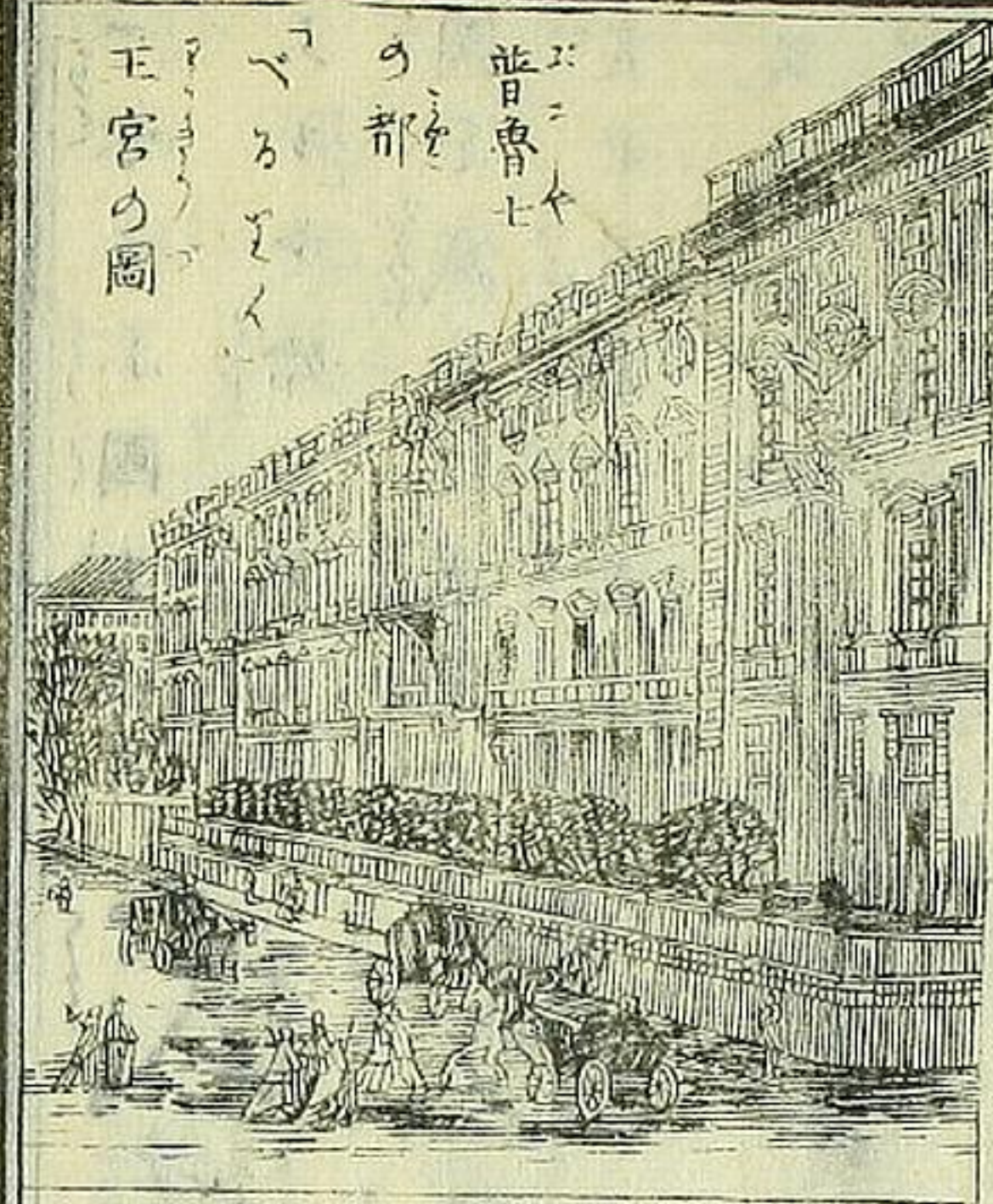
文武の盛なること
至りて盡せしむ
ふべし國中の下人
水飲百姓小至るま
でも字を知らざる
者なく調練の歩法
を知らざる者か
去る慶應二寅年小
ハ填地利と戦て勝
利を取て其時敵へ

會國一一生息も産物
之々穀菓実等麻葡
菊金銀銅鉄多し
と地より出るは日暮暮
士國人口一五八五千人

一味の小國せり
ふるを始り六七箇
國を滅して其地を
并せ元來一千八百
萬の人口増して二
千二百萬余の數小
上をて斯る大戦争
小日を費したるハ
僅小五十日をか
あり當時西洋か

民の教の行而は貴
賤男女の差別あり
女子は知し者なる
一 文備て武備起
兵士三十一萬人

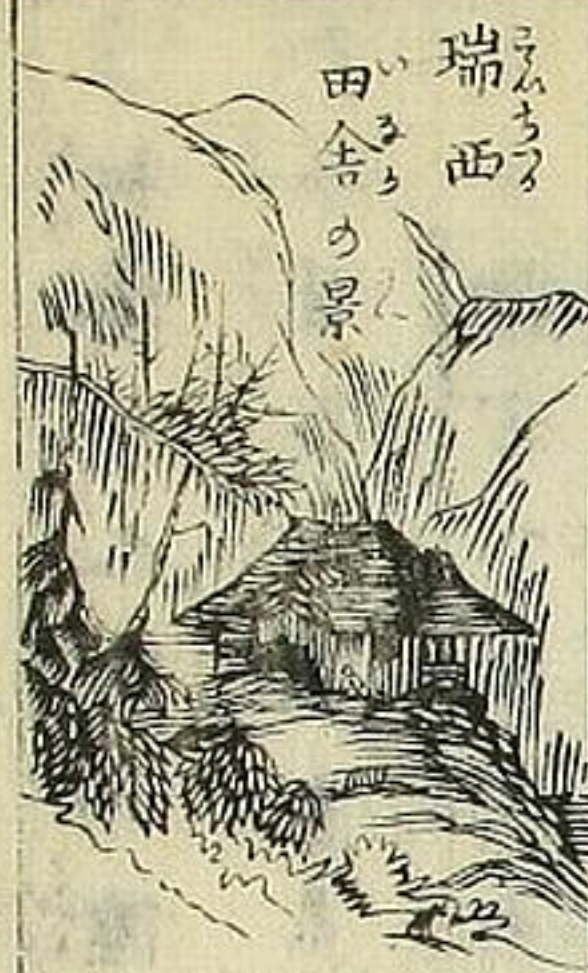
こまを七七日の戦
と唱へて古と違ひ
何事も手早く力を
し今の世の中あり



隣の街々も皆之四寸れ
魔をけけりたり
南北方の小國ハ
宇多天保留富

馬和里屋等西北
堺の禮儀河とあり
源をまゐるは山阪
高き手瑞西國の政
事ハ共和政小国

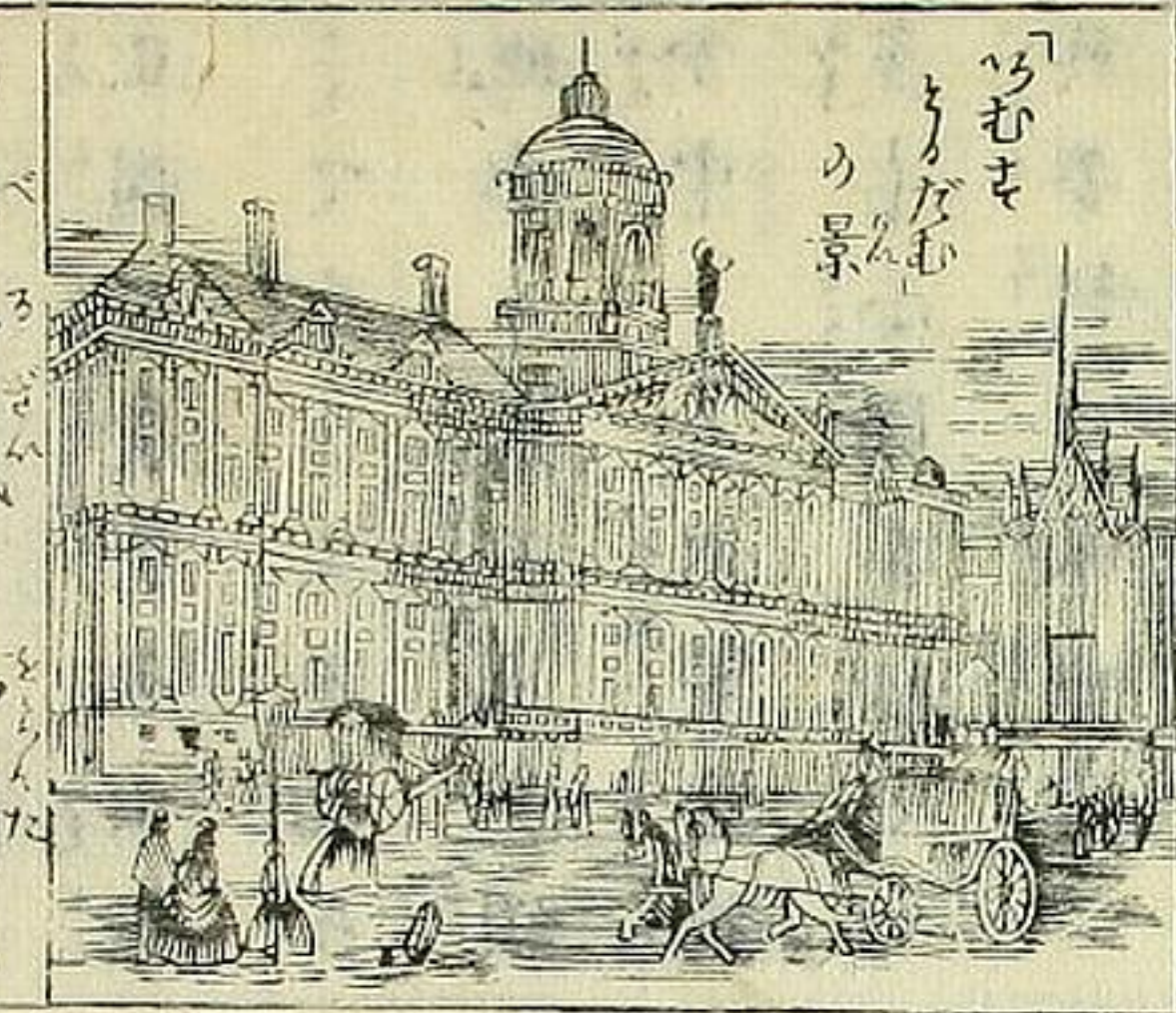
○瑞西の都をべる
んと以ふ時計細ユ
の名所あり此國ハ
山國小て人皆質素
儉約且勇氣あり故
小國かきども外
國の輕蔑を受けど



○和蘭の人別ハ僅
小三百六十萬
とも諸方へ飛地の
領分多し國の人皆
藝學を勉め殊ハ海
軍ハ此國の得意
都を「ワグ」とい
ふ市中奇麗ふと
も繁花からど國中
一の交易場ハらむ

此の様に文書
の教の好ぶ早し百
工技藝云手就老し
他の侮は被るに禮
陰の流其し一也乃

港あり
且とるだむといふ



○白耳義ハ和蘭よ
里分せたる國也

河尻以和蘭は一
中之山見ぬをく
起平地し河多々小
患は来水し人の知
後乃巧を諸方乃

ども全体の土地柄
ハ和蘭よきもよく
且國民農業小出精
して少くも不毛の
地あり鉄石炭も領
か中より出製造物
多し小國ふれども
英吉利の風
○昔々連國ハ名高
き強國小て今小至

築く堤塘田畑の
業一々精一々花
の産物少くは諸國
渡り出交易人此
衣食ハ饒なり西

るべき諸方ハ飛地
の領分多し元治元
子年日耳曼と戦ひ
見苦しからぬよふ
防禦したもども衆
寡敵せを遂小和睦
して南の塚なるも
ちん近傍の地を失
ひ國の人別五十萬
人を減りたり

の隣ハ白身義士
と和柔の土地を
主風俗ハ異なり
農者多しは生産ハ
倍々増し倍々人



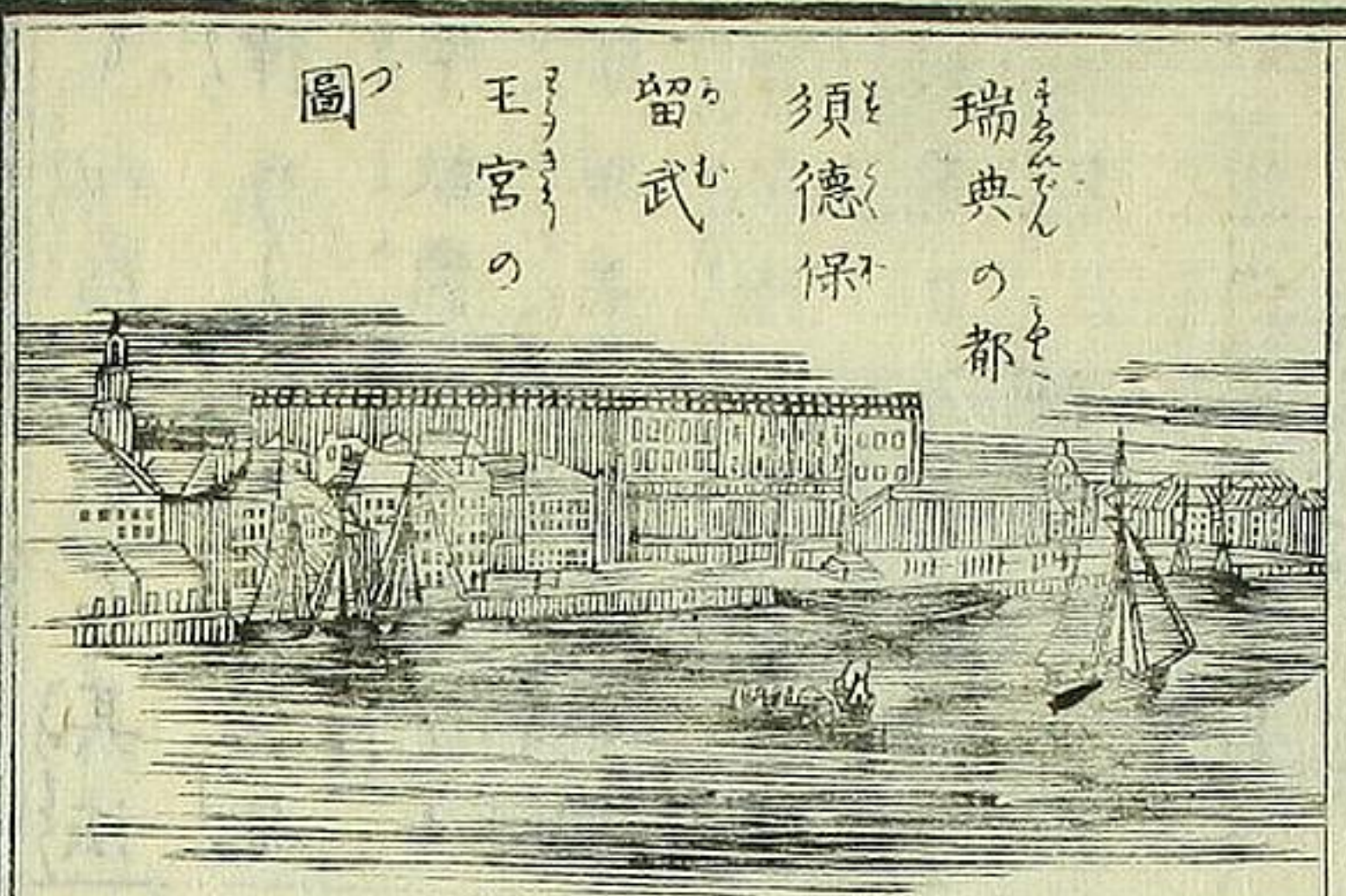
○瑞典能留英ハ一
政府の支配おもと

情勢國ハ富強
志一なり
白耳義士を以て
方より付く先は連
國都は骨片波迎

兩國自から其法
律ハ瑞典王ハ毎
年數箇月の間必
能留英ハ行て其國
事を治るを例と
瑞典ハ蒸氣車の
路少一旅行もろハ
道中筋の百姓よ
馬を出させ三四
里の宿次小て

玉中一の交易場
波片以渡北瑞典
西に隣り能留英西
東の多玉以一合
一玉西の都を難

人を乗せ荷物を送る
國法と云



瑞典の都
須德保
留武
王宮の
圖

汝知屋奈東、汝德
保留武、其、省
汝、敏、不、毒、以、地、不
の、人、を、合、と、其、は、乃
數、四、百、三、十、萬、北、地

○二百年以前、
ハ魯西亞も小國不
て且北方の田舎國
か、バ學問も開け
が、人氣暴くして殺
伐、ある風俗あり
り、千六百年代の末
元禄年、平土留帝と
中の項、平土留帝と
以、へる英明の君出
て、一時小國を改革

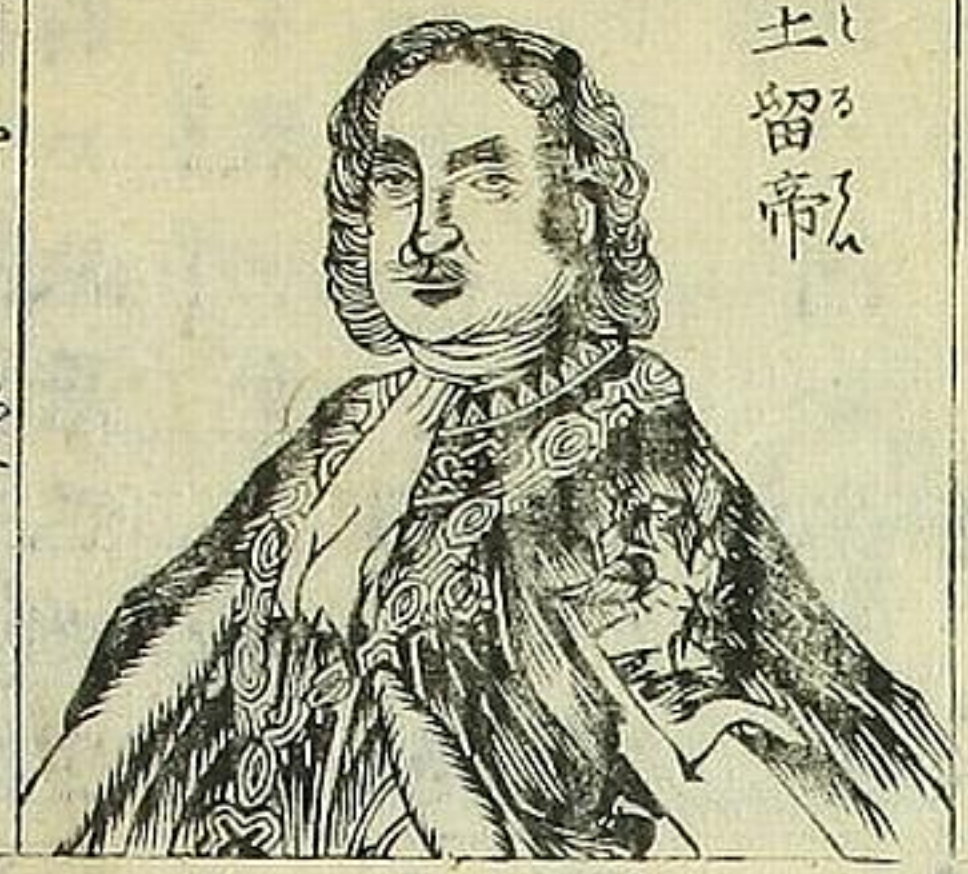
の氣候寒くし
開け、北地、稀
が、れ、と、女、穀、菜、実
と、登、る、山、より、出、る
金額、中、日、鉄、は

英佛和蘭等の如
き文明の國の風
おらひ學校を設け
海陸軍を建て内を
守り外を攻め歐羅
巴諸國と並び立つ
のよからむ堂々た
る一大國の基を開
き今日に至るまで
威名を世界中に轟

極ありて世界無類の
名ありて
次由保苗武元港よ
東を帝國魯西要の

かせを

平土留帝



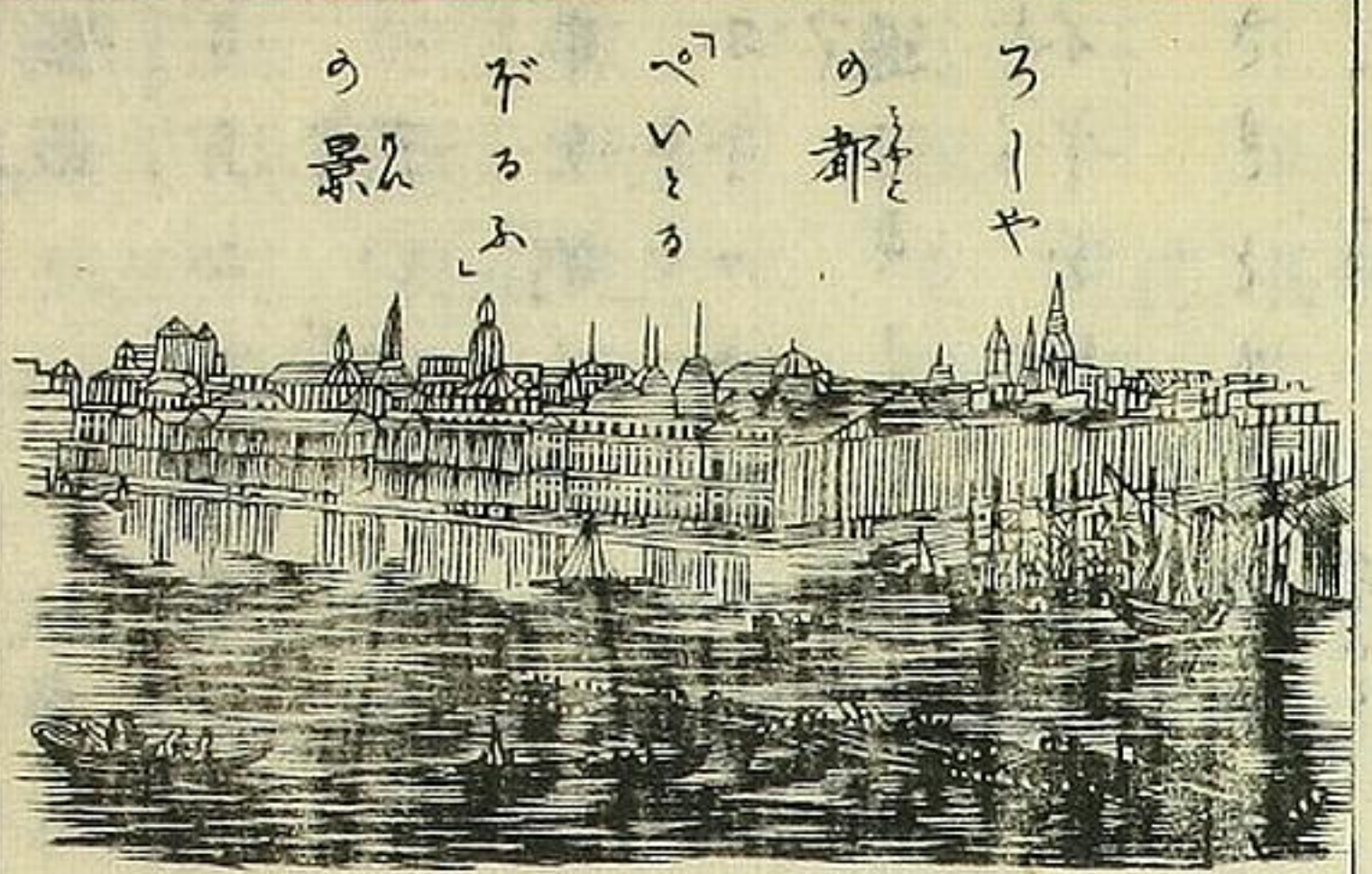
魯西亞の都ハもと
いふこころと云ふ
おまが平土留帝
の時ハ北方の海岸

都なる新都平出
苗保苗府たり抑魯
西亜の傾分ハ細亜
米利加歐羅巴三英海
と跨りて東西ニ九百

へ新小都を開きこ
り成平土留保留府
と名けそ奈和とい
ふ河の畔おりて
當時ハ歐羅巴洲中
小も数少あき大都
會しあを但一寒
氣ハ甚そだしく冬
の間ハ河小氷そて
て海すても氷の上

余皇南北一千里世
界此土地を治る
一と有る一政府生殺
と奪司の權柄を握る
皇帝一人の手に余

を往來さべ



魯西亜ハ他の歐羅

萬れ人氏の上をまた
る皇これ君四海の波
と静まり鎮る河世
の治り乱れ忘れぬ
徳のしるふ文武の教

巴諸國と違ひ立君
獨裁といふ政事の
立方小て國帝一人
の思ひ通て勝手小
事を捌く風あり故
小下々の情合上小
通りて國中
不平を抱く者多し
さきとも其國柄北
方小偏して外國の

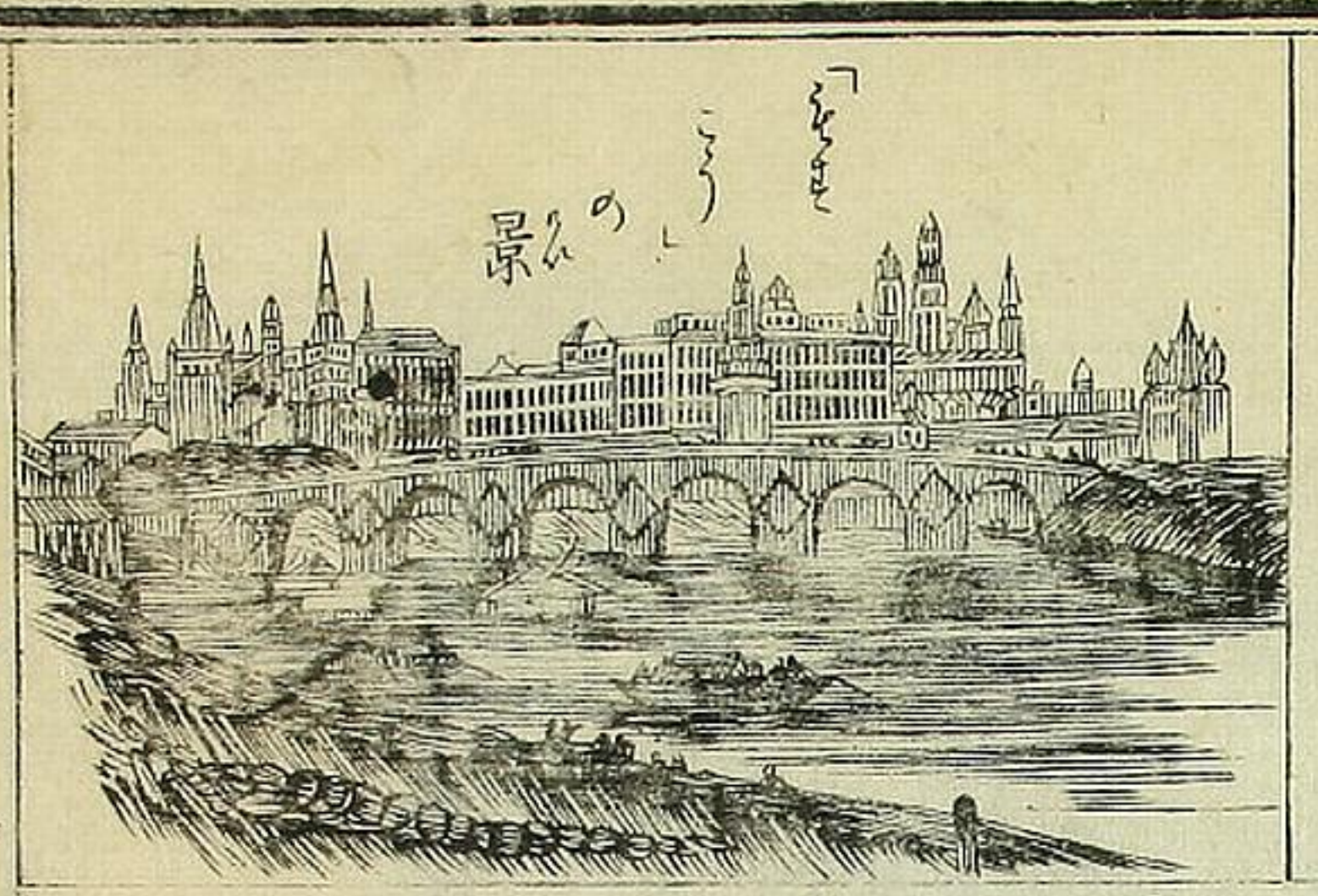
懈たし兵士の教
を六千萬國に後方
設けたるハ九百の學
校九千五萬の地皆
古くより習ふ藝

敵を受ること少か
く且其武備格別小
よく行届きたとい
外敵を受るも敗北
せしことあり既に
安政元年英佛の大
兵黒海に入るにせ
ざるに不るといふ
處を攻めしこと巧
もども敵味方五分

物ハ五穀獸類等存
烟草等良田山林産
了々金銀銅鉄等
術ハ次第に進む國
の富も亦たする産

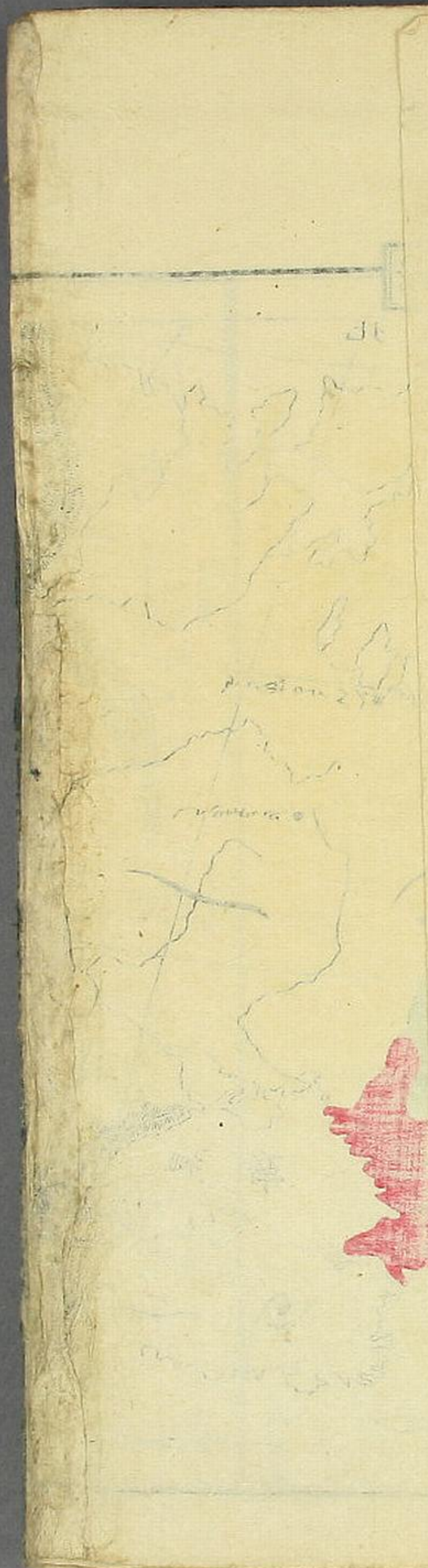
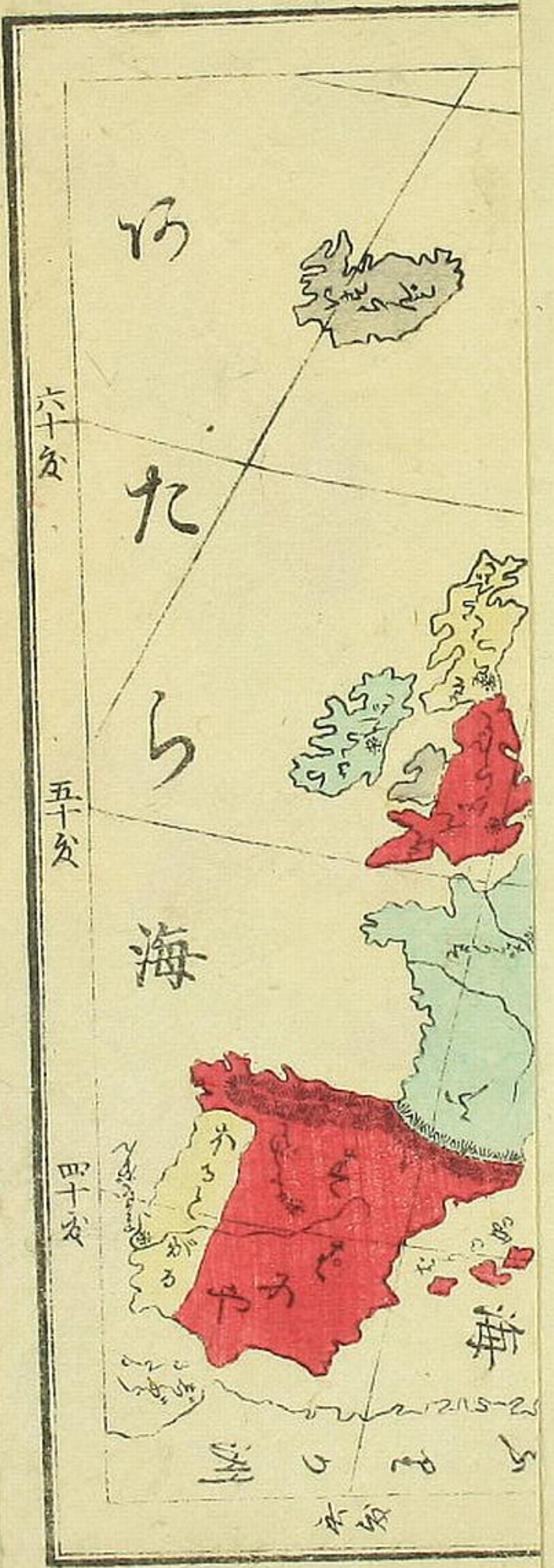
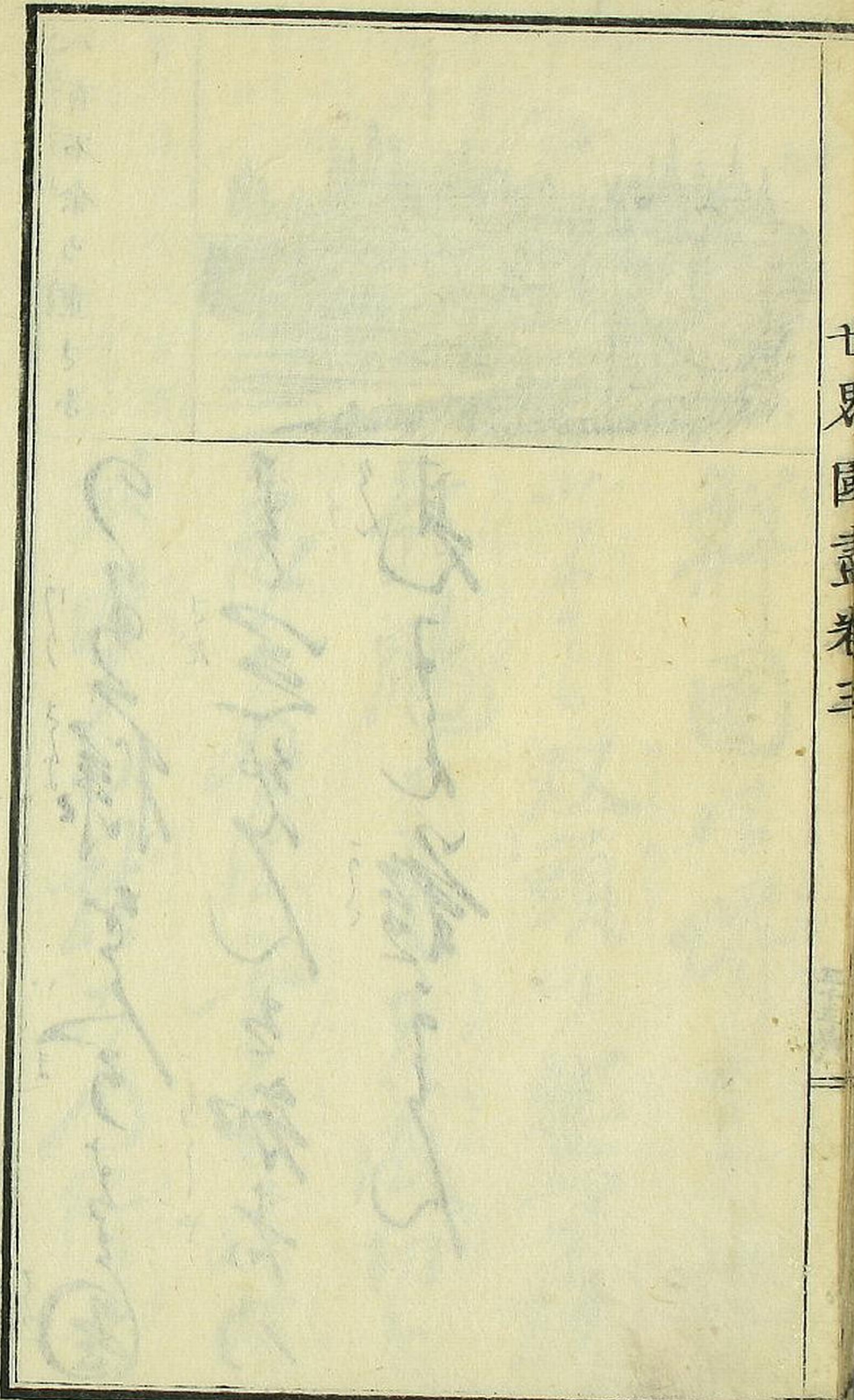
人ハ自から市中を
焼拂ひたまども其
後まゝ普請して却
て以前よりも奇麗
あり市中小寺院多
く名代の鐘りの高
さ二丈一尺重さ千
六百「ん」即ち我四
十三萬三千六百貫
目米小ま色バ一萬

鮮國以堺を勢
せり。双頭の鶴の旗
紅腸まゝ其成切を
急ぐ。ぬはるる。此
城望む。龍乃行末

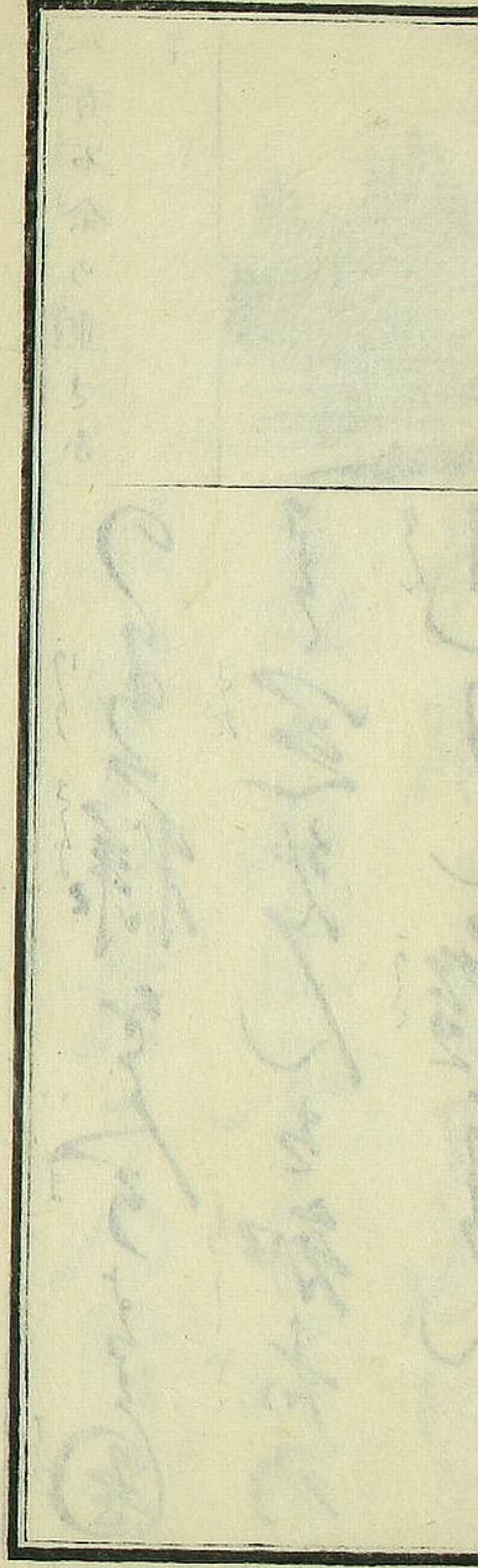
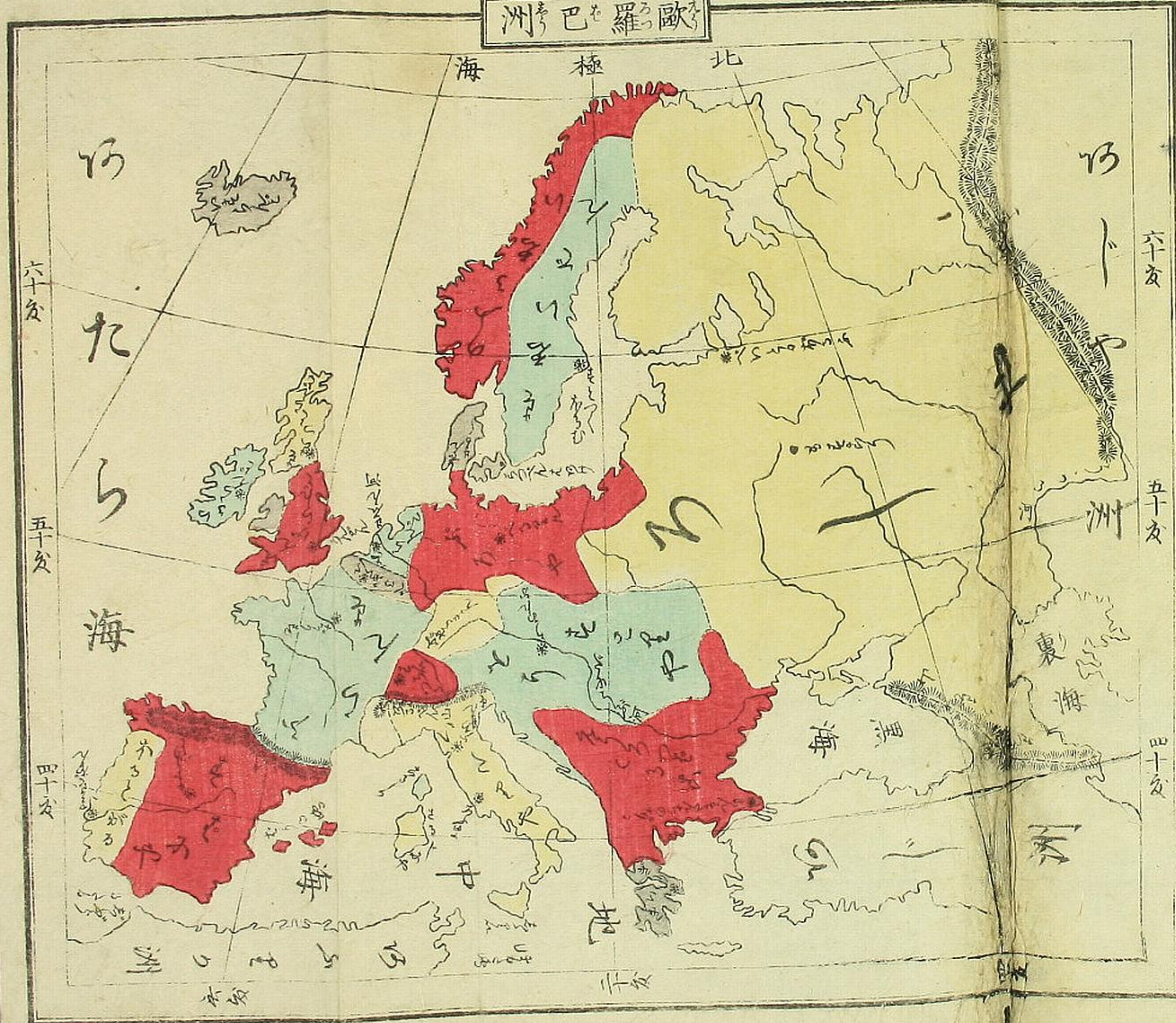


八百石余の重さあり

のまゝ様を今
見ん難ん
見ん難ん
見ん難ん



歐洲巴羅歐



010190533935

Handwritten text and a small sketch on the right page, possibly a botanical illustration. The text is arranged vertically and includes characters such as 子, 十, and 十. A small, detailed drawing of a plant or insect is visible on the right side of the page.

